

博士課程教育リーディングプログラム 平成26年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
申請大学名	東京大学	申請大学長名	濱田 純一
申請類型	複合領域型（環境）	プログラム責任者名	武田 展雄
整理番号	B01	プログラムコーディネーター名	味埜 俊
プログラム名	サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、21世紀に人類が直面する地球・社会・人間システムに関わる課題を解決し、持続可能(サステナブル)な社会の構築に貢献できる、幅広い知識、高度な専門性、俯瞰的な見識・倫理観、さらにはグローバルリーダーとしてのスキルを身につけた人材の養成を目標とする。そのための教育改革として、①新領域創成科学研究科のネットワークと関連部局の連携教員グループからなる、全学的なサステナビリティ学の連携ネットワークを構築する。一方、先導的な教育研究を実施してきた国内外の大学とネットワークを構築し、学生の興味や研究上の必要に応じた広範な研究教育の機会を提供する。②とくに、国際連合大学や欧米・アジアの協定大学、企業等と連携し、専門性の高い教育や国外での修学機会を提供することにより、サステナビリティに関わる複雑な問題の解決能力と、国際的に活躍できる表現力・語学力を養成できる環境を構築する。

2. プログラムの進捗状況

平成26年度は、4月と10月にそれぞれ第4期生、5期生となる学生を受け入れ、以下に述べるとおり教育プログラムを実施した。

- ・ プログラム運営委員会を9回、実行委員会を11回、国際アドバイザリーボードを1回開催してプログラムを運営し、「修士課程30単位、博士課程20単位」を修了要件とするカリキュラムを実施した。
- ・ 本プログラム履修生の選抜試験である入学試験と、QE (Qualifying Exam) となる修士論文審査と博士課程入試を夏期（8月）と冬期（2月）の2回にわたり実施した。
- ・ プログラム実施のために特任教職員を採用し、また、特任外国人教員を招聘して、プログラム実施体制を維持発展させた。
- ・ 教材作成のための資料収集・翻訳、現地調査や、他の研究教育機関との情報共有・討議などを行った。講義演習で用いる機材を整備した。
- ・ 学生の修学支援のために、奨励金を支給し、研究に最低限必要な居室スペースを確保しパソコンや教材用書籍を購入した。国内・海外で実施する演習への参加旅費補助46件、調査研究のための旅費補助15件・物品購入経費の補助、国内外における学会発表のための旅費・参加費補助9件、遠隔地におけるインターン実施のための旅費支援2件を行った。

- ・ 国連大学との協働ディプロマを運営実施した。H26年度、本プログラムからは2名がディプロマコースを修了した。
- ・ 民間企業（博報堂）と共同プロジェクトを立ち上げ、講義への講師派遣、インターン受入スキームの確立を実現した。学生も参加して共同でサステイナビリティ学に関わる映像教材作成に着手した。
- ・ 本プログラムが拠点とする柏地区のまちづくりの中心となる「UDCK」をハブに社会（企業・自治体）連携による演習構築に着手した。
- ・ 本プログラムのカリキュラム評価と世界標準化を目的とする研究会（ワーキンググループ）を組織、活動を開始した
- ・ 優秀な学生を獲得するために、ホームページとパンフレットを作成して広報を行い、さらに、プロモーションのためのセミナーを、トルコ（イスタンブール）、中国（上海）、コスタリカで実施した。
- ・ サステイナビリティ学教育・研究における連携を主目的とする協定を海外大学との間で1件締結した。（ナイロビ大学ワンガリ・マータイ・インスティテュート）
- ・ サステイナビリティ学教育・研究における国内・国際連携の強化とその成果発表の場として国際シンポジウムを開催した。
- ・ 平成27年3月に、本プログラム初の博士論文審査を実施し、1名が、本プログラムの開始により設置された新しい博士学位（サステイナビリティ学）を授与された。